

それいけ!

新米先生

学年末・別れの準備

子どもの心に残る 演出を

文 | リンリン (ペンネーム)
イラスト | 松井晴美



あつという間の3学期だから、子どもたちの心に残る思い出作りも計画的にしたいわね。

3月には子どもたちともお別れだ。大変だったけれど、今となっては名残惜しいな。何か子どもたちにしてあげたいな。

一年間のしめくくり

「別れの演出」は計画的にしよう

3月の学級解散の日。

一年間かかわってきた子どもたちとの別れは、何度経験しても名残惜しいものです。持ち上がりのクラスなら尚更…。新米先生の子どもの別れはまた格別でしょう。

学級解散の時期は、教師も子どもも何かと慌ただしく、何かを企画したいと思ってもなかなか難しいものです。私も、別れの演出をしたいと思ながらも、時間的な余裕がなく、簡単に終わらせてしまった経験が何度もあります。せっかくですから、計画的に準備して、悔いの残らないようにしたいですね。

以下、形として残る文集作りや、心に残るイベント作りについてアドバイスをします。

◆思い出文集作り

学年末に文集作りに取り組む先生は多いでしょう。しかし、読み応えのある文集にしたいと思う反面、それほど時間はかけられないのが現状です。印刷や製本の時間も考えながら、早めに計画的に取り組んでおきましょう。

(1) 作文

今まで書きためてきた作文を活用させるのがおすすめです。これまでの指導を生かし、タイトルや書き出しの工夫をさせると、ぐっと作文のレベルがあがります。ページを決めて目次をつけてあげるとなお本格的ですね。タイトルの工夫が目次で生きてきます。

私は、作文は必ず、その子の手書きで書かせるようにしています。見やすいからと活字に直す場合もあるでしょうが、やはり、味のある子どもたちの手書きが一番です。一生残るものだから、自分が書くことができる最高にきれいな字で書くように声かけします。丁寧に原稿用紙に書かせて縮小コピーすれば、初めから小さい字を書かせなくて済みます。

後々まで残るものであるからこそ、内容や誤字脱字等は丁寧に細かくチェックしたいものです。

(2) 子どもたちのアイディア企画

作文だけでなく、子どもたちのアイディア企画も掲載するとさらにおもしろくなります。

たとえば、「十年後、二十年後の自己予想」「未来の自分へのメッセージ」「クラスの思い出アンケート」等々。

また、「なんでもベスト3」「ぼく、わたしのマイブーム」等、その年の流行がわかる企画を入れると、振り返った時に懐かしさを感じるでしょう。

ただし、子どもたちがよくやりがちな「○○○な人」と友達の名前が載ったランキングは作らせないう、人権にも配慮しましょう。

(3) 友達へのメッセージ

クラスの友達は一年間ともに過ごしてきた仲間です。そんな仲間に、友達の良さや頑張っていたこと、してもらった嬉しいことなどをメッセージとして文集に載せてあげると子どもたちは喜びます。

友達へのメッセージの内容は、文集を渡す時まで秘密にしているので、渡した時にニコニコしながら熱心に読んでいる子どもたちの姿を見ることが出来ます。

教師も子どもたちと同じように、担任として最後のメッセージを全員に書いて

あげられたら素敵ですね。

◆心に残るイベントを企画

子どもたちの心に残るイベントを企画して、一年間のしめくくりとしたいものです。

一年間の最後を飾るイベントは、楽しいだけではなく、「成長を確かめ合い、喜び合う」ものにしたいと考えます。

①一年間のあゆみがわかる内容に

たとえば「クラスの歴史を語る」「クラスのドラマを発表」「できるよになったことの発表会」など、一年間を振り返る内容を企画します。

授業や行事を通してクラスが作り上げられていく過程で、忘れられない出来事があると思います。その出来事のシナリオを子どもたちに作らせ、振り返ります。以前受け持ったクラスでは、これを、呼びかけ形式や、寸劇で発表したグループがあり、その巧さに大爆笑でした。

また、できるようになったことを、技の披露や実技入りで発表させて、成長をクラス全員で認め合う会にするのも素敵です。

②気持ちを伝えられるように

「夢を語るスピーチ」や「ありがとうのスピーチ」は、普段はなかなか伝えられなかった気持ちが伝えられます。

たとえば、普段は乱暴でやんちゃなA君が、照れくさそうに「このクラスの友達はみんな優しくかった。こんなおれとも仲よくしてくれて嬉しかった、ありがとう」とスピーチした時には、われんばかりの拍手がおこりました。

最後のイベントです。このクラスでよかった、この仲間でよかったと思えるような内容にしたいですね。

③成功体験で終われるように

最後のイベントであるからこそ、ぜひとも成功して終われるようにしてあげたいものです。そのため、練習の時間を少し取ってあげたり、グループごとにリハールをして教師がアドバイスしてあげたりすることも大事です。

また、授業を計画的に終わらせておくことも必要です。ギリギリまで授業に追われていては余裕がありません。見通しをもって取り組んでいきましょう。

ありがとうの気持ちをこめて

「先生、ありがとう！」

子どもたちからのたった一言で、あんなに手を焼いて大変だと思っていた子どもたちとの日々が宝物に変わっていきます。

3月は気持ちの良い別れを演出し、お互いにリセットして羽ばたくときです。新米先生としての悩みや、失敗したこと、もつとこうしてあげたかったと後悔したことも、すべて貴重な経験として次年度に生かしていきたいですね。

あつという間の三学期。子どもたちとの素敵な出会いにただただ感謝して、一緒に最後まで全力疾走しましょう。

